

# ROTARY CLUB OF OMIYA WEST



2016～2017年度 大宮西ロータリークラブ週報



創立：1963年3月22日 会長 新見 和男 第2514例会 2017/ 5/15  
例会場：パレスホテル大宮 幹事 渋谷 廣慶 発行日 2017/ 5/29  
例会日：月曜日12:30～13:30 会報委員長 平岡 健太 会報当番 田村 戸一

## 会長あいさつ

会長 新見 和男



皆様、こんにちは。  
まだ5月にもかかわらず、気温が30°Cを超える日があったりしてそろそろ夏本番に向けて暑さ対策が必要になりますよね。炎天下や室内でめまいがしたり、気分が悪くなったり・・・『熱中症』は怖いですよ。

『熱中症』は、屋内屋外を問わず高温や多湿等が原因となって発症し、21°C～25°Cあたりから要注意だといわれています。

『熱中症』の発症者を年齢層別に見てみると65歳以上の人が半数以上で、年齢が高いほど発症率が上がってくるというデータがあります。

自宅での発症が多いということです。気密性が高い屋内では夜になっても室温が下がらず、省エネで冷房を切るケースが増えているのが原因です。

暑い日は屋内屋外で注意しましょう。

水分をこまめにとる。塩分を程よくとる。睡眠環境を快適に保つ、丈夫な体をつくるのが基本的な予防対策ですが特に高齢の方は扇風機やエアコンで室温を下げましょう。過度の節電や、この程度の暑さは大丈夫と我慢してはいけません。

どうか御身、ご自愛下さい。

## お客様・米山記念奨学生ご紹介 小木曾賢己 副会長

埼玉栄高等学校

教頭・インターアクト顧問 奥 章 様

株式会社YHC

吉見 寛 様

米山記念奨学生

シャキヤ・スラクシャさん

## 米山記念奨学生近況報告

シャキヤ・スラクシャ さん



私はシャキヤ・スラクシャと申します。5月の13日米山記念奨学の入学式に行って来ました。

私の支援のために大宮西ロータリー一次年度の高橋さん、藤嶋さん、染谷さんがいらっしゃいました。

Speechの時ちょっと緊張しましたが、皆さんが深呼吸とって話して下さいと言いましたのでなんとか、いいSpeechでした。大学の先生たちも聞きました。すごく楽しかったです。その後の手に手つないでのsongが一番面白かった。

## 幹事報告

幹事 渋谷廣慶



次週は休会となります。

5/29(月)北 清治元RI理事が卓話にいらっしゃいます。そして6/4はアルディージャの応援例会になります。

新見年度後半戦に入ってきましたが宜しくお願いします。

## 委員長報告

会員増強維持委員会  
高橋誠一 委員長



会員増強維持理事の高橋です。今年の目標は30名です。TOTAL 140名です。5月と6月中に紹介していただき5月中に125人～130人にしたいと思います。

会員の皆様、是非お一人の紹介をお願いいたします。

## 親睦と奉仕そして人づくり

事務局：さいたま市大宮区桜木町1-11-2 YK-12ビル 4F

TEL. 048-871-8881 FAX. 048-871-8882

E-mail: info@rc-omiya-west.com HP: http://rc-omiya-west.com/



## 会長エレクト 高橋秀樹

米山記念奨学生入学式出席報告



5/13(土)14:00～ ラフレさい

たまで行われました、2017学年度 ロータリー米山記念奨学生であるシャキヤ・スラクシャさんの入学式に私と染谷幹事エレクト、藤嶋次年度地区米山記念奨学委員とで出席して参りました。2017学年度の奨学生は34名で、継続生9名・新規25名、男性8名・女性26名、学部生16名・修士12名・博士6名という構成でした。

奨学生全員の3分間スピーチがあり、それぞれに熱い思いを語ってくれました。シャキヤさんもととても素晴らしいスピーチをしてくださいました。スピーチの中で、ロータリーの「四つのテスト」をこれからの人生の信条として生きていきますと言った際には会場全体に感動の渦が湧き上がりました。一番良いスピーチだったと思います。

シャキヤさんは例会への出席と我々と一緒に奉仕活動をするをとても楽しみにしています。どうか皆さんの方からお声かけをしていただきますようお願いいたします。

シャキヤさんは現在、研究に励みながら、来春の就職に向けて就活をしています。彼女は今、日本企業の新卒一括採用方式による人材育成について研究しています。そして日本企業に入社して、大学での研究で得た知識と社会人としての実務経験を積んで、いずれは母国ネパールの発展に寄与していきたいと思っています。

シャキヤさんが就職を希望する業種は、金融機関・旅行会社だそうです。関係する会員の皆様にはご指導と応援を是非ともお願いいたします。

## ロータリーの友

### 広報・雑誌委員会

榎本貞寿 委員長



横組みから

① P3にRI会長、ジョン・F・ジャーム氏のメッセージがあります。

6月10日～14日にアトランタ世界大会が開催されます。ビル・ゲイツ氏、キング牧師の息女や夫人の講演、グラミー賞受賞歌手のリッキー・スキャッグス率いるバンドの演奏などさまざまな魅力的なイベントを開催するそうです。

まだ間に合いますと参加をよびかけています。

② RYLA ロータリー青少年指導者育成プログラム P7～13 若者のリーダーシップを養成する各地区の取り組みを紹介しています。

P8では、第2660地区（大阪北部）の紹介。日本初のRYLAを1976年に実施しホストクラブが戸惑わない工夫や、ロータリーパパ&ママが付き一緒に参加するなどさまざまな取り組みをしています。

P10では、第2720地区（熊本・大分）では熊本地震を経験したこともあり「その時どーする？ピンチ

に強いリーダー論」と題して事が起きた時に沉着冷静に対応できるよう、危機管理の面からリーダーとしての心構えを学んだそうです。

RYLAを通じて会員増強へつながら、ローターアクトに入会する参加者も多いそうです。

P13では、2月9日第9回全国RYLA研究会が「日本におけるRYLAの普及」を目標に開催された紹介がされています。

③ インターアクター P14～18

P14では台湾との相互交流をすすめる第2550地区（栃木）の記事が記載されています。ホームステイなどで一緒にお風呂に入り裸の付き合いをし、寝食をともにする事で距離が一気に近づいたそうです。

当クラブも台湾南投との交流がありますので何らかの参考になるのかも知れません。

P16では、米子勝因高校IACが、クラブで習ったハンドマッサージを老人ホームで行い喜んでもらった記事。P17には福島成蹊高校IACが保育園児と一緒に手話ステージを施設で開くなど慰問活動を紹介しています。

④ 寄付金の流れ:寄付が生かされるまでP22～27

2016年ロータリー財団は、アメリカ全土の慈善団体を評価する独立機関 チャリティーナビゲーターから100点満点をもらい、9年連続四つ星の評価を受けました。これほど高い評価を受けているのは、全慈善団体のわずか1%に過ぎない栄えあることです。

ロータリー財団への寄付は人道的支援への目標を達成する為、小額の寄付でもポリオプラス基金など使途を指定して寄付することができ、また、指定せずに最も必要とされる場所に財団が自由に活用できるようにすることも出来ます。

寄付金は3年間運用され、収益は財団の運営費に当てられ元金の半分は地区財団活動資金（DDF）に、残りの半分は国際財団活動資金（WF）にまわされ地区補助金や、グローバル補助金として各プロジェクトの資金として生かされ、活動成果を検証し、地域社会が変わった事をわかってもらうという流れをわかりやすく説明しています。

⑤ 心は共にP30

2月11日大館南RCは、約430年前より続くこの日に飴を食べると風邪をひかないとされるアメッコ市の会場で「ロータリー希望の風奨学金」の募金活動をインターアクトと共に行いました。

P31名古屋南RCは、「忘れない3.11・・・東日本大震災から学ぶ」と題しイベントを開催し、参加者全員で大震災について学びました。

阿蘇RCより熊本地震で被災し地元の人々の身代わりに倒壊したといわれる阿蘇神社復旧支援の依頼があります。

⑥ ガバナーのページP38～40

P40に第2740地区（長崎北RC）の崎永 剛ガバナーは、ロータリーの友を読むことで「ロータリーとは何か、ロータリーの今、そして未来は」などの回答が示されていると感じられ、理解が深まり地区の奉仕活動も知ることが出来る。

せっかく購入した雑誌です。元は取りましょと伝えています。

## 縦組みから

### ① 上杉鷹山の訓え P4~8

第2800地区（山形）のクラブ奉仕グループセミナーでの基調講演要旨です。

上杉鷹山は1751年~1822年、江戸時代中期、暴れん坊將軍でおなじみの徳川吉宗の少し後から16歳で米沢藩主となり改革を進めた人物です。儒学を学び、学問を重視し、当時では非常識に思える改革をしたようです。

誰かのせいでなく自分たちの責任で実際の生活に役に立つよう考える様なシステムを作り、身分に関係なくレベルアップされ、コミュニケーションを大切に結果、飢饉へ備える危機管理体制など、現在にも通用する素晴らしい実績をあげたことが紹介されています。

### ② クラブを訪ねて：

高知RC P9~12

高知市内に東経133度33分33秒、北緯33度33秒の地点がありモニュメントを建てた事から地球33番地の始まりで、今年はこの地球33番地の行事として「幕末維新博」で盛り上がっているそうです。

ハチキンとは「男勝りの女性」を指す土佐弁ですが、会員92名の内女性が14名と活発に活動しています。親子二代の会員も多いそうだが四代目の会員もいるそうです。

かつて在籍した転勤会員のために毎年同窓会を開き「お帰り」と迎えるほど家族的なクラブです。香川のうどん県をもじって酒県高知というほど酒が好きな会員もいる元気なクラブです。

### ③ 友愛の広場：

「職業奉仕はロータリーの根幹か？」に思う<P 16~17>

「職業奉仕」はロータリーの根幹です<P 17>

どちらも「友」一月号の本田博己氏の記事に関する意見です。日本のロータリーが大切にしてきた職業奉仕と時代と共に変化するRI方針をどう考えるか大いに議論すべき課題ですのでご一読ください。

### ④ ロータリーアットワーク写真編：神戸須磨RC<P 22>

「国際親善の夕べ」で世界からの研修員とIACやRAC、米山奨学生らと共に交流を深め、同時にポリオ撲滅への理解も得ました。

### ⑤ ロータリーアットワーク文章編：中条RC<P 27>

ウェブ上で寄付を募るクラウドファンディングによる社会奉仕活動を達成しました。

この取り組みはロータリーを広報して一般の人々も活動に参加してもらおう新たな取り組みとして注目すべきものです。

## 【第2770地区内からの掲載記事】

・「縦組み」から

### ① ロータリー・アットワーク写真編

近場のクラブの活動としてP 23に志木PCが市内のロータリーの森の下草刈りの記事

P 25にさいたま新都心RCの職業奉仕委員会による会員企業見学会の記事が載っています。

歌壇P 21に我が大宮西RCの川鍋一夫会員の歌が掲載されていますのでお読みいただければと思います。

## ゲスト卓話

<埼玉栄高等学校教頭・インターアクト顧問  
奥 章 先生ご紹介>

インターアクト委員会  
齊藤政春 委員長



埼玉栄高等学校  
教頭・インターアクト顧問  
奥 章 先生



『私たちは何のために部活動指導をするのか』

埼玉栄高等学校に奉職して31年、今年32年目を迎えました。着任と同時に吹奏楽指導を命じられましたので、同じ年月を吹奏楽指導に当たっています。

この間、朝練習の始まる前に出勤し、授業の後、放課後の練習を終え、生徒が解散した後に残った仕事を整理してから帰宅。学校に勤務している時間は14時間を超えることもままあります。休日でも当然部活動。盆、暮れ、正月だけがまとまった休みですから、生徒も大変ですが、実は教師も大変なのです。

この間に、よくぞ結婚、子育てができたものだと思うと、カミさんには本当に頭が上がりません。昨年の8月1日に放送された、NHK「クローズアップ現代」では、「ブラック部活」という話題が放送されましたが、その内容は、ほぼ「野球」と「吹奏楽」でした。番組が始まると同時にうつるスタジオの背景のセットが、野球のユニフォームと楽器を持った子どものシルエットだったのを覚えています。

さて、埼玉栄高校といえば「部活動が強い」というイメージどおり、本校では私以外にも情熱を持って部活動指導を行う教員がたくさんいます。

では、なぜ私たちは、これほど熱を入れて部活指導をするのでしょうか。

私たち吹奏楽部には部訓があります。それは「日本一の努力をしよう」です。単純に「日本一になろう」でも良かったのですが、あえてこうしました。

子どもたちが掲げている目標は「全国大会で金賞を取り、日本一になる」というものですが、私は「目標はそれでも良いが、部活動をやる目的は違う」と子供達に言っています。つまり部活動の「目標」と「目的」は違うのです。

音楽はそもそも競い合うものではありません。競い合うには不向きと言った方が良いでしょう。しかし、コンクールは別物です。これは「勝負」ごとですから、やるからには「勝つ」ことを意識しなければなりません。私は勝負ごとにおいて『参加することに意義がある』などとは思っていません。ましてや、子どもたちは毎日毎日、それこそ死ぬほど練習研鑽に励んでいます。その努力はどこかで評価されなければ、やる気も起きませんし、楽しくありません。ですからコンクールは勝つことを最大の目標として、その子どもたちの夢の実現のために、私たち指導者は奮闘努力をするのです。

ですが、勝負は水物。「勝ち」があれば「負け」もあります。もし「負け」てしまったなら、そのとき、



子ども達の努力は無に帰してしまうのでしょうか。「負け」たら、全てが否定されてしまうのでしょうか。「努力は人を裏切らない」と教えてはいますが、その「努力」に裏切られるのを知るのも勝負事なのです。

ですから、私は勝つことだけがすべて、という教育はしたくありません。先ほどの言葉と矛盾するようですが、勝利至上主義、金賞至上主義のような考えを子ども達には持ってほしくないのです。

ここに、私は部活指導の意義があると思っています。

私は部活動の目的を「人間形成」だと、子ども達に教えています。「金賞」を取ったら嬉しい、だけれどそれは「目標」であって「目的」ではない。吹奏楽部は「音楽」を通し「人としての生き方」を学ぶのだと教えます。ですから、部訓も「日本一の努力をしよう」となるわけです。

今年も新入生が65名入部し、現在190余名の部員がいます。顔と名前を覚えるのも一苦勞ですが、これだけいけば子ども達の間にも人間関係の問題が頻繁に発生します。今どきの子供たちは、心の悩みを自分で解決できる子が少なくなっています。子ども達にはこう言います。

「みんな一人ひとり顔が違うように、みんな考えていることが違う。みんなが自分と同じように考えているなんて思ったら大間違いだ。」

「自分のことを分かってくれないと思うのなら、分かってもらえるよう言葉を尽くしなさい。分かってくれないのは相手が悪いのではない。伝えきれない自分が悪いのだ。」

また、私は子ども達に「勉強は大切だ。しかし、勉強は自分のためにするのではない。人のために、みんなのためにこそするのだ。」と教えます。そして、「部活動の目的は、君たちが将来職場に出たときに、『君がいると職場が明るくなる』とか『君といっしょに仕事がしたい』と言われるような人になることだ」と言います。それこそが埼玉栄高校吹奏楽部が目指す活動目的だと思っています。

「今の日本にはもちろんもう『武士道』などはありません。しかし、その代わりに『部活動』があります。『部活動』こそが、今の中高生に道徳を、人の生き方を教える術だと確信します。文科省の中では近年、部活動不要論を唱える人たちがいます。しかしこれは、部活動を経験したことがない人たちが言うことです。私たち埼玉栄高校には、立派なこの『部活動』があるのだと、自信を持って教育をしてください。」

私たちは、これからもこの精神をもって、部活指導にあたってまいります。

ご静聴、ありがとうございました。

## ロータリーの目的

本日のリーダー：小岩淳一 会員

## 四つのテスト

本日のリーダー：重松高浩 会員